



みんなの回生

題字揮毫
元県知事・前川忠夫



■ 病院長就任・退任のご挨拶	2
■ ロボット人工関節手術について	3
■ 手の外科・マイクロサージャリー	4
■ はじめまして	5~9
■ 患者さまからの御礼のお手紙	10

回生病院理念

皆さまに愛され信頼される病院を目指します

回生病院基本方針

- 一、私たちは質の高い医療を提供します
- 一、私たちは保健・医療・福祉と連携を図ります
- 一、私たちは予防医療の充実に努めます

患者さまの権利と責務

- 一、患者さまには、最善で公平な医療を受ける権利があります
- 一、患者さまには、医療内容について十分な説明と情報を受ける権利があります
- 一、患者さまには、医療行為について選択・同意・拒否する権利があります
- 一、患者さまには、個人情報を保護される権利があります
- 一、患者さまには、自らの健康に関する情報を提供する責務があります
- 一、患者さまには、病院の規則を守る責務があります

2024年
305号



社会医療法人財団 大樹会 総合病院 回生病院
坂出市室町三丁目5番28号
回生病院ホームページ <http://www.kaisei.or.jp/>

☎ 0877 (46) 1011 (代)
夜間の受付も行っています。



病院長就任のご挨拶

病院長 沖屋 康一



2024年4月1日、杵川前病院長の後任として病院長に就任いたしました沖屋康一です。責任の重さをひしひしと感じています。皆様どうかよろしくお願いいたします。

私が回生病院に着任したのは2002年4月、脳神経外科の一員として診療を開始いたしました。数えてみると22年が経過し、今月で23年目を迎えます。その間、診療面では先輩方にご指導を頂き、また、看護師、リハビリスタッフ、その他職員の方々にさまざまな場面で支えられながら、診療を通じてたくさんのお客様やそのご家族親類の方々やと接し、多くのことを学ばせていただきましたことに感謝申し上げます。

さて、COVID-19の世界的流行は医療の世界のみならず社会構造をも大きく変化させています。高齢化社会、経済不況、人手不足なども加わって、日本の医療を取り巻く状況はますます厳しくなっています。そのような中でも、回生病院は地域の皆様のニーズに合わせた姿に刻々と変化し続けていかなくてはなりません。どのような方向へ向かうべきなのか、皆様の声を聞きながら院内スタッフと力を合わせて進んでゆく所存です。どのような状況においても、安全で質の高い医療を提供するとともに他の医療・保健・福祉機関との連携も大切にしていきたいです。

今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。



病院長退任のご挨拶

前病院長 杵川 文彦



このたび、令和6年3月31日付をもちまして当院の病院長を退任致しました。

在任中は至らぬ点が多く、関係各位の皆様には多大なご迷惑をおかけいたしました。温かくご指導いただき誠にありがとうございました。心から感謝しております。

退任後も再雇用として、しばらくお世話になります。今後は従来にも増して一所懸命努力していく所存です。引き続き、ご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、後任として沖屋康一が就任いたしましたので今後ともわたくし同様一層のお引き立てご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のさらなるご活躍とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



ロボット人工関節手術について

整形外科 課長 小禄 純平

変形性関節症の手術、特にひざと股関節の手術についてのお話です。

「関節」とは骨と骨の「継ぎ目」であり、その表面は軟骨に覆われています。軟骨は柔軟性があり表面はツルツルしており、正常な関節ではスケートリンクのように摩擦なくスムーズに動きます。しかし、加齢やケガで軟骨がすり減ると痛みがでてきます。初期の段階ではシップやストレッチ・リハビリで対応できますが、進行し痛みが生活に支障をきたすようなら人工関節手術が適応になります。

一般的に、人工股関節手術では患者さんの満足度が 98%と手術を受けられた方の多くが満足されていますが、ひざでは 10～20%の方が満足していないといわれます。原因はいろいろあるのですが、そのひとつとしてひざのカチの個人差が言われています。

従来の人工ひざ関節手術では「まっすぐな」ひざを目指していたのですが、日本人はもともと「少し」O脚の人が多いためまっすぐなひざに違和感を感じるというわけです。「じゃあその少しO脚を目指せば良いじゃないか！」と思われるかもしれませんが、それには1mm、1度単位での調整が必要で、熟練の外科医であっても容易ではないのです。

そこで登場するのが2024年1月より当院で導入された人工関節用ロボットです。ロボット手術では0.1mm単位での調整が可能です。患者さんのCTデータをあらかじめ読み込ませて骨を切る量を計画し、手術の際は医師がロボットアームを操作して骨を削ります。操作する医師が余計な箇所まで削ろうとすると自動的に止まるという安全機能もあり、重要な神経や血管などを傷つけるリスクはほぼゼロになります。2010年より国内導入されすでに90の病院で使用されて

いますが、香川県では当院が初となります。高い正確性と安全性が担保され、術後の満足度向上に寄与してくれると期待しています。

ちなみにロボットの名前はMako（メイコー）といいます。

ロボット手術と聞くと怖い印象を持たれる方もいるかもしれませんが、実際にMakoを使用して手術をすると、とても頼もしい相棒で、最近はおドラえもんのようにかわいく見えてきました。ちなみにドラえもんの誕生日は2112年9月3日だそうです。それよりも90年早く当院にMakoが来てくれたのはとてもいいニュースだと思います。



ロボットでの人工関節手術が気になる方は一度、整形外科外来にいらしてください。



手の外科・マイクロサージャリー

整形外科 非常勤嘱託医 笠井 時雄

昨年令和5年10月から非常勤嘱託医として勤務させていただいております、笠井時雄と申します。主に手の外科・マイクロサージャリーを担当しております。手の外科やマイクロサージャリーが専門と云っても、ほとんどの方が、手のケガや障害の治療を思い浮かべられるかと思えます。また整形外科以外の医師の多くの方々が、同様の認識でおられるのではないかと感じております。確かにきわめてマイナーな専門科であり、そのような状況も残念ながら致し方ないのでしょうか。

もちろん手のケガや神経障害などが治療の中心ではあるのですが、手の外科医（学会が認定する専門医・指導医制度があります）は、米国で例えられているように、四肢の皮膚から骨に至るまでの組織（骨・関節はもちろんのこと、血管・神経を含むskin to bone）の損傷を手術・治療する再建外科医であると自任しております。

約20年前にはこの回生病院において、当時の小川維二病院長先生のご指導の下、現在、理事長をされている松浦一平先生や森田哲生諸先生方とともに、上腕切断から手指切断までの再接着術、また外傷による組織欠損に対しては、足から手への移植や腸骨・下腿骨の血管を付けた状態での複合組織移植術など、多くの貴重な症例を経験いたしました。回生病院での約5年間の臨床経験と治療のアイデアは、その後、米国整形外科学会や手外科学会において、たびたび発表、講演をさせていただきました。そのころ共に働いた医師や医療スタッフたちは、地方の一病院ではありますが、皆、高い志がありアイデアと馬力で勝負してやろうといった気概に溢れていました。現在もその気概と精神は、失われていないように思います。

わたくしも年を重ね、20年前と比べて何かをひたすら追いつけるエネルギーは失われたものの、手術や治療の全体像がみえるようになり、とくに手術においてはプラスに働いているように思われます。

これからも回生病院で培われた挑戦とあきらめない精神をもって、診療を行っていきたいと考えております。

引き続きなにとぞよろしくお願い申し上げます。



はじめまして



麻酔科 課長

鵜澤 将

2024年4月1日より回生病院麻酔科に赴任いたしました、鵜澤 将（つぎま ささし）と申します。

生まれも育ちも千葉県で、実家は舞浜にある世界的に有名な某マウスの生息地から車で30〜40分の距離に位置します。2007年に東邦大学を卒業して以降、ほぼ一貫して母校に勤務しております。たが、今回、縁があつて回生病院で働かせていただくことになりました。

趣味は落語鑑賞で、時間を見つけては妻と二人、浅草・新宿界隈の定席や噺小屋を物色するのを楽しんでおります。

話は変わりますが、麻酔科は『処置』ばかりで『診断・治療行為』をほとんど行いません。『治療』に比べ、『処置』であるからこそ、ネガティブな事象を避けることが強く求められます。それ故に『合

併症を避けること』を第一に考える麻酔科医は他科と意見が食い違つこともしばしばですが、『コミュニケーションを密にして乗り越えていきたい』と思いますので、気軽にお声がけいただけますと幸いです。

最後になりましたが、至らぬ点多くご迷惑をおかけするかもしれませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



外科 課長

四方 祐子

4月より外科で勤務させていただきます。四方祐子（しかた ゆうこ）と申します。

2007年に徳島大学を卒業し、福岡県で2年間の初期研修を行った後、徳島大学病院、高松市民病院（現・高松市立みんなの病院）、徳島市民病院、徳島県立中央病院などで勤務してきました。

専門は消化器外科で、胃がん、大腸がんなどの手術や抗がん剤治療などを行っています。手術は腹腔鏡下手術を中心に、患者さんの負担の少ない安全な手術を心

がけています。手術だけではなく、その後の抗がん剤治療や緩和治療なども一貫して携わっています。

また単径ヘルニアや腹壁ヘルニア（膺ヘルニアや腹壁癒痕ヘルニアなど）についても腹腔鏡下での修復術を積極的に行ってまいります。単径ヘルニアについてはこれまでに200症例以上の腹腔鏡下修復術（TAPP）を行い、2020年に日本内視鏡外科学会の技術認定医を取得しました。命にかかわらない良性の病気だからこそ合併症や後遺症がなく、患者さんの満足度の高い手術が必要と考えています。

今後も学会などで最新の治療や手術方法を勉強しつづけて、さらに良い医療を提供してまいります。よろしくお願いいたします。



外科 係長

田中 光

本年度4月より回生病院整形外科に赴任することになりました田中 光（たなか ひかる）と申します。

出身は宮崎県都市で鹿児島県との県境で、最近ではふるさと納税で有名な場所です。金沢医科大学を卒業し、福岡大学病院で2年間初期研修した後、福岡大学整形外科へ入局いたしました。その後、熊本整形外科病院、沖縄の友愛医療センターを勤務してきました。現在卒後7年目となります。

当院では外傷メインになると思いますが、昨年度から手術支援ロボット（人工関節）が導入されており、とても楽しみにしております。

四国に来るのは人生で初めてであり楽しみもありますが、不安も同様にあります。まずは、四国全県を早めに回ることで、またゴルフのスコアは100以下にすることをプライベートでの目標としています。

整形外科医としてまだまだ経験不足な点も多々ありご迷惑をおかけすることもあると思いますが、御指導ご鞭撻のほど何卒宜しく御願ひ致します。



消化器センター 係長

和田 英里香

本年度4月より回生病院消化器センターに配属になりました。和田英里香と申します。消化器外来や内視鏡検査・治療を中心に勤務いたします。

香川県丸亀市で生まれ育ち、香川大学を卒業後、大学での初期研修を終え、屋島総合病院で二年間勤務の後、昨年度は香川大学医学部附属病院で幅広い消化器疾患について研鑽を積む機会をいただきました。

この度、地元に近い回生病院への赴任となりましたこと、大変嬉しく思います。このご縁を大切に、坂出を中心とした地域医療に貢献できるよう、精一杯努めていきたいと思っております。

医師としてまだまだ未熟であり、至らぬ点も多々あると思いますが、初心を忘れずに丁寧な診療を心がけ、日々成長できるよう励んでまいります。何卒よろしくお願ひいたします。



研修医

上野 雷人

本年度4月から回生病院で勤務させていただきましたことになりました。初期研修医の上野雷人と申します。

私は、幼いころから患者さんに優しく寄り添え、信頼される医師という職業を志していました。

これから、医師としての基本的な資質を学んでいくわけですが、基本的な手技や勉強も、もちろんですが、コミュニケーション能力を向上させることで、患者さんたちから、信頼していただけるような医師に少しでも近づければいいな、と考えています。

まだまだ未熟ではありますが、回生病院の立派な一員となれるよう、精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



薬剤師

長谷川 和紀

本年度4月から薬剤師として勤務させていただくことになりました、長谷川和紀と申します。

私は、幼少期から数学や理科などの理系科目が好きで、好きなことを活かして人のためになることをしたいと思い、薬剤師を目指すようになりました。

医療現場においては、様々な専門分野に特化した医療人が活躍しています。その中で良質な医療を提供するため、薬剤部の先輩から学んでいくことはもちろんのことですが、常到他職種へのリスペクトを忘れずに、患者様と全医療従事者間で良好な関係を築き上げることが重要だと考えています。

知識は持っているだけでは意味が無いため、適切に用いることで少しでも皆様のお役に立てるよう意識して行動して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



助産師

小河原 佳南

本年度4月から回生病院で助産師として勤務させていただくことになりました、小河原佳南と申します。

私は、どのような状況においても母子とその家族に寄り添い、「回生病院を選んでよかった」や「出産が満足いく良い経験になった」と感じていただける関わりができる助産師を目指しています。

分娩介助実習では、面会や立ち会い出産に制限が残る中で1人1人に個別性を考えながら寄り添い、安全な出産となるケアを提供するために、日々知識や技術の向上に努めることの大切さを学びました。

学んだことを活かしながら、患者様やスタッフの方々と信頼関係を築けるよう努めるとともに、地域に貢献できるように精一杯頑張りますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



看護師

内海 里奈

本年度から回生病院に勤務させていただくことになりました、看護師の内海里奈と申します。

私は患者さんの気持ちに寄り添うことができる看護師になりたいと考えております。来院される患者さんの中には不安を抱えている方も多くいらっしゃると思います。不安や緊張を和らげるためにも患者さんの言葉だけでなく、表情からも気持ちを読み取れるようになりたいと思います。

また、知識だけではなく技術も磨き、患者さんに安心していただけるような環境をつくりたいです。

未熟なところも多々ありますが、回生病院の一員として精一杯努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。





看護師

中川 真衣子

本年度4月から回生病院で勤務させていただきましたことになりました、看護師の中川真衣子と申します。

以前回生病院に実習で伺った際、患者様に寄り添った温かい看護をされており、私の理想の看護を提供している回生病院に魅力を感じました。こうして回生病院で働くことを大変嬉しく思います。

私は、患者様の思いに寄り添い、信頼関係を築き、個別性を尊重した看護師になることを目標としています。信頼関係を築くために、患者様の話に真摯に耳を傾け、不安な気持ちを受け止め、安心して過ごせるよう努めたいと考えております。また、知識や技術が未熟なため、常に向上心を持ち、自己研鑽に努めていきたいです。

まだまだ未熟で至らぬ点も多いと思いますが、日々精進して参りますので、ご指導の程よろしくお願い致します。



理学療法士

宮西 菜央

本年度4月から回生病院で勤務させていただきましたことになりました、理学療法士の宮西菜央と申します。家族がお世話になっていた回生病院で働くことを大変うれしく思います。

私は、自宅で家族の介護をするなかで介護の大変さを実感し、患者様やそのご家族様の退院後の生活をよりよくしたいと考え理学療法士を目指すようになりました。そのために先輩方や患者様から多くのことを学ばせていただき知識と技術を高め、広い視野を持つて患者様一人一人に最善のリハビリを提供できるようにがんばります。また、明るい気持ちでリハビリに取り組んでいただけるよう笑顔と会話を大切にしていきたいと考えています。

まだまだ未熟で至らない点が多々あると思いますが、回生病院の一員として貢献できるよう日々努力して参りますので、皆様よろしくお願いいたします。



医療事務

谷川 昂輝

本年度4月から回生病院で勤務させていただきましたことになりました、医療事務の谷川昂輝と申します。

私自身、社会人としてのスタートを回生病院で迎えられることをとても嬉しく思っています。

私は、患者様に対して、少しでも不安を払拭し、安心していただけるような職員を目指しています。そのためには、医療事務員としての業務をいち早く習得し、患者様一人一人の声に耳を傾け、回生病院と患者様、私自身と患者様との信頼関係を築きたいと思えます。

まだまだ未熟で至らぬ点もありますが、回生病院の一員として、理念である「皆さまに愛され信頼される病院」を実現させるため、日々精進して参りますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



医療事務

西山 芽依

本年度4月から、回生病院の医療事務として勤務させていただく事になりました、西山芽依と申します。

私は、以前回生病院に通院していた際、事務の方に笑顔で丁寧に対応していただき、不安に思っていたことが和らいだ経験から、医療事務員を目指すようになりました。そのきっかけとなった回生病院で働けることを大変嬉しく思っています。常に優しい笑顔で、相手の立場に立って考えながら業務することを心掛け、少しでも患者様の不安を和らげることができるとな存在になりたいです。

また、患者様や職員の方から信頼される医療事務員になれるようまずは積極的に挨拶をしていきます。

まだまだ至らぬ点が多くあると思いますが、常に学ぶ姿勢を大切に一日でも早く皆様のお役に立てるよう精一杯取り組みさせていただきますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。





患者さまからの御礼のお手紙

回生病院でお世話になった皆様へ

昨年、腱板断裂の手術で約1ヶ月間入院させていただいた垂水です。

入院中は、執刀医の大西先生をはじめ諸先生方、リハビリの先生方、看護師の皆さん、スタッフの皆さん、貴院のたくさんの方々に大変お世話になりました、誠にありがとうございました。

昨年春、トレーニング中に右肩を痛めてしまい、手術が必要と診断されたときはとても目も眩しかったです。手術も入院も初めての経験なので、正直、少し不安もありました。しかし、いざ入院生活

この日が私の人生初の手術でした



24時間いつも笑顔で支えていただきました！



が始まると、先生方は優しい言葉で安心させてくださり、看護師さんやスタッフの皆さんは忙しいのにいつも笑顔で、心身のケアだけでなく楽しいお話もたくさんしてくださって、右腕の不自由を全く苦に感じないほど幸せな毎日でした。術後の痛みもほとんどなく、食事も美味しく、病室も毎日綺麗にしてくださり、何ひとつ困ることなく過ごせたのは、紛れもなく皆さんのおかげです。

毎日美味しく、超幸せでした〜



たくさんの愛情で献身的に支えてくださり、本当にありがとうございました！！

退院後まもなくデザインの仕事に復帰できました。その後のリハビリ通院で肩はみるみる回復していききました。そして、手術から半年後のMRI検査では、腱板が元通りにつついていて、肩の動きも良好で、大西先生から「回復状態は満点! 🌸」とお墨付きをいただきました！！

半年後こんなに動くようになりました！

リハビリを卒業した今は、日常生活の制限もなく、軽い筋トレも再開しています。焦らずゆっくりと筋力回復を目指していこうと思います。



最近手術の傷跡も目立たなくなってきました。嬉しい反面、少し寂しさも感じています。この先、何十年経っても、右肩の小さな傷跡を見るたびに、お世話になった皆さんのことを思い出していきたいです。皆さんの力で復活していただいた**宝物**の右肩を、これからもずっと大切に使っていきます！！

毎日のリハビリは癒しの時間でした〜

私にとって恩人の皆さんに何もお返しできていなくて申し訳ありません…。

皆さんに直接恩返しすることが難しくても、皆さんからいただいた恩を、他の誰かに送れるような人生にしていこうと思っています。

毎日とてもお忙しいと思いますが、どうか体調を崩されることはありませんよう、くれぐれもご自愛ください。こんなに素敵な、



そして、とても大変なお仕事に従事される皆さんに敬意を表し、これからもずっと陰ながら応援しています。回生病院で幸せな入院生活を過ごさせていただき、本当にありがとうございました！！

垂水

※ 垂水様より掲載許可をいただきました。